

◆【全国発信記事】 北陸支部

新造船・沖合底曳網漁船「第18梅昭丸」が就航

石川県加賀市の橋立漁港で19年振りの新造船

8月4日、新造の沖合底曳網漁船「第18梅昭丸」(12総トン)が、乗組員家族や関係者らが集まるなか、大漁旗をなびかせて橋立漁港(石川県加賀市)に入港した。

「第18梅昭丸」は「旧第18梅昭丸」の代替新造船で鳥毛造船所(石川県七尾市)で建造され、石川県漁業協同組合加賀支所の所属船としては19年振りの新造船となる。

船主であり漁労長の梅田武伸さんは「後継者確保がままならない状況や漁獲・魚価の低迷など、底曳業界が厳しい状況にありながらも、橋立港の底曳業界を盛り上げ、一緒に乗船している息子に将来の底曳漁業を託したいという強い思いもあり、建造に漕ぎ着けた。新型コロナウイルス感染症の影響による鮮魚の需要の落ち込みや燃油価格が上昇しているなか、最新のエンジンや操業機器を備えた新造船でもあり、厳しいながらも乗組員や関係者の皆さんの期待に応えられるように精一杯頑張りたい」と語った。

また、「旧第18梅昭丸」(11総トン)は、橋立港で同じ底曳漁業に従事している中島康文さんに譲られ、エンジンを新品に載せ替えるなどの改修を施し、船名は海で成功を成すようにとの思いから「海成丸」と名付け、長年の夢であった自分の船を手にし「不安はあるが事故の無いように精一杯頑張りたい」と意気込みを語った。

9月から来年の6月末までエビ・カニをはじめとする魚貝類狙い操業

2隻は操業に向け準備作業を行い、石川県漁業協同組合所属船らと出港し、9月から来年6月末までエビ・カニをはじめとする、魚貝類などを狙い操業する。

「海員だより」